

# ブレント地域の夏休みのプレイスキーム

ダーリンプル 規子

七月中旬、ほとんどの学校が今年一年の授業をすべて  
終え、来年からの新しい学期を前に夏休みに入った。そ  
の夏休み等の長期の休みに忙しくなるのが、アウト・オ  
ブ・スクールの活動を支えているチャリティーグループ  
のブレントプレイアソシエイションである。このグルー  
プはブレント地域の公的な部署―チルドレンプレイサー  
ビス―と連携しながら、学期中は、学童（アフタース

クールクラブ）を行なっている各クラブに経営のアドバ  
イスや活動のサポートなどを提供しているが、長期の休  
みになると、三時間ほどの短時間の学童とは違って、彼  
らの傘下にあるプレイスキームに通ってくる子どももの登  
録からこのチャリティーグループが引き受け、ブレント  
地区に広がる全てのプレイスキームの合同活動なども企  
画したりするので、特に大忙しである。

## ホリデイ・プレイスキーム

十年ほど前は、自由にどんな子どもも出入りできる「子どもの遊び場」だったようだが、現在は、登録制・有料制になっている。

ブレントプレイアソシエーション自体は、四つのメイソンのスキームの他、三つの障児のためのスキーム、一つの問題行動を起こす子どものためのスキーム、そして一つのある会社の子どものためのスキームを抱えている。そして、ブレント地域には、それ以外に二十ほどの大小のボランティアグループ―宗教によるもの、人種によるもの等―によるスキームがあちこちで活動している。

スキームに参加できる子どもの年齢は、基本的には四歳から十一歳のどこかの学校に所属している子どもたちで、スキームの大きさ



は、場所の広さにもよるが、大体子どもを五十人くらいから八十人くらいまで受け入れることができる。ただし、小さい所は三十人程度の所もあるようで、また、障児のスキームは、それぞれが二十人定員であった。スタッフは、子ども十人に対して、一人くらいの割合で、たとえば、私が一日活動に参加させてもらったスキームはスタッフ十人、子どもが八十人弱で一日を過ごしていた。

時間は、八時から六時が普通だが、スキームによっては十時から三時までという所もある。夏休み等の長期の休みのみ開かれている所もあれば、普段は学童として活動している所がそのまま継続して、一日の活動を行なう所もある。料金は、一日十三ポンドから十五ポンド（現在の日本円にして約三千円）が普通だが、ボランティアグループのスキームには、一日二ポンド（約四百円）という所もある。働いている親は行政にいくらかの援助金を申請することができる。ただし、その政策では、働いていない親の子どもが置き去りにされかねないので、賛

否両論あるようである。

各スキームは定員制のため先着順だが、ブレント地域北部の方が生活が安定している人が多く住んでいて、このスキームがいつばいになって南部を勧められても、行きたがらない人が多いとのことである。それは、自分子どもへの影響を考えてのことであろうが、プレイアソシエーションのスタッフは、今は南部もずいぶんと変わってきているが、昔の評判がそのまま残っているからそれを変えるのはなかなか難しいと残念がつている。

親が直接申し込む子どもの他に、ソーシャルワーカーから頼まれるケースもかなりある。移民の子ども、虐待児、シングルマザーで子どもも多くいて働きの行けないケース、この機会に障がい児の自分の子どもとのふれあいを深めるために、他の子どもをスキームに預ける等、スキームに来る目的はさまざまである。ただし、ソーシャルワーカーから回ってきたケースの子どもは、何らかのスペシャルケアが必要な子どもが多く、十人の子どもに對し一人というスタッフ体制では、受け入れが難しいと

いうのが本音のようだが、現状の中でどこかが受け皿とならないと行き場がなくなる子どもたちのために、プレイアソシエーションが担当している四つのメインのスキームにはそれぞれに約七人の子どもがソーシャルワーカーをおして通ってきている。

活動は、基本的にはそれぞれのスキームのスケジュールによるのだが、週に一度は合同の催し物―サッカー、ラウンダー（ソフトボールのようなもの）、ゴーカートレース、そして遊園地への遠足―が企画されている。

### オリバー・ゴールドスミス・プレイスキーム

私が訪れたプレイスキームは学期中は学童を行なっている、つまり一年中活動を行なっている所で、ブレントプレイアソシエーションのメインの四つのスキームのうちの一つである。スーパーバイザー（現場の総括責任者）は黒人の女性で、チャイルドマインダーとか、クレシユ（乳児の面倒を見る所）等のチャイルドケアの仕事にも長年携わってきた人であった。出会った時に、日本



▲オリバーゴールドスミス・プレイスキーム

で出会った保育者の人たちと似た雰囲気をもってしていると感じたが、実際スキームに流れる雰囲気も、子どもの年齢が幼稚園等の子どもより上であったり、活動もダイナミックであるにもかかわらず、私が慣れ親しんだものと似ているという印象を持った。

他のスタッフは、学童の時にも働いている常勤のスタッフ（黒人一人、白人二人、皆女性）とホリデイ・プレイスキームのための臨時のスタッフ（黒人男性一人・女性一人、白人男性一人、インド人女性一人）である。

常勤のスタッフの一人は、昔はオフィスで仕事をしてきたが、この仕事に就いたら前の仕事には戻れないね、と私に話してくれ、自分たちのスキームをととても誇りに思っているようであった。臨時のスタッフの人たちの経歴もさまざまで、普段は建築関係の仕事をしているが、長期の休みのみ、自分のリフレッシュもかねて何年もスキームを手伝っているという人や、子ども時代にスキームに通っていた人が今は学生で手伝いに来ている人、学校でアシスタントティーチャーをしていて現在正規の先

生になる勉強をしている人等、さまざまな年齢、職種の人  
 人がいた。通ってきている子どもは、ブレント地域の北  
 部のせいかな、思ったより白人の子どもも多かったが、イ  
 ンド人もかなりいて、あとは黒人で、中国人も数人見ら  
 れた。

スキームは五週間にわたり、毎週大まかなスケジュー  
 ルがたてられていて、どこかへ出かける予定（有料のもの  
 もある）が入っているときは親への手紙で希望者を募  
 り、スタッフは外出組とスキームの場所に残る組に分か  
 れて子どもの面倒を見るようである。

小学校の食堂の二部屋がスキームの主な活動場所だ  
 が、小学校の校庭も利用していて、そこには、広い運動  
 場の他に、遊具等が置いてある小さい運動場、芝生や木  
 陰のあるちよつとした広場のような場所もあって、それ  
 ぞれに自由に楽しんで遊んでいる姿が印象的であった。





### プレイスキームのある一日

朝八時、スキームの部屋の鍵が開く。八時から十字の

## Oliver Goldsmith's Playcheme 2004 Week 4

Monday 9th August	Tuesday 10th August	Wednesday 11th August	Thursday 12th August	Friday 13th August
<p><b>MORNING SESSION</b></p> <p>Free Play  <b>REGISTRATION</b>                      Pompons                      Quiz Day  <b>LUNCH</b></p> <p><b>AFTERNOON SESSION</b></p> <p>Basketball                      Backword Quiz                      Question of Sport</p>	<p><b>MORNING SESSION</b></p> <p>Free Play  <b>REGISTRATION</b>                      Freindship bracelets  <b>TRIP: LONDON ZOO</b>                      All ages  <i>(limited spaces)</i></p> <p><b>LUNCH</b></p> <p><b>AFTERNOON SESSION</b></p> <p>Creative writing based on Zoo experiences                      Connect 4 tournament                      Pasta necklaces</p>	<p><b>MORNING SESSION</b></p> <p>Free Play  <b>REGISTRATION</b>                      Sall Layer                      Popcorn making                      Video day  <b>LUNCH</b></p> <p><b>AFTERNOON SESSION</b></p> <p><i>'Bouncy Castle'</i>                      Landscape drawing                      Pompons</p>	<p><b>MORNING SESSION</b></p> <p>Free Play  <b>REGISTRATION</b>  <b>GO-KARTS GRAND PRIX</b>                      (at Stonebridge Centre)  <b>LUNCH</b></p> <p><b>AFTERNOON SESSION</b></p> <p>Bingo                      Sewing                      Water-painting                      Masks</p>	<p><b>MORNING SESSION</b></p> <p>Free Play  <b>REGISTRATION</b>  <b>TRIP: PIZZA HUT</b>                      All ages  <i>(limited spaces)</i></p> <p>Suggles  <b>LUNCH</b></p> <p><b>AFTERNOON SESSION</b></p> <p>Outside Skipping                      Shakers</p>

Always Available  
 Pool, Football, PS2, Books, Boardgames, Outdoor activities

▲スケジュール表

間に、子どもたちが親に連れられて、あるいは自分たちで、スキームへやってくる。朝ごはんを食べていない子は、スタッフがトーストを作ってあげたりしている。他の子どもたちは、何で遊ぶのかと部屋の中に広がっている。ボードゲーム、ミニチュアのサッカーゲームやビリヤードをする子、お絵かきや切り絵・貼り絵等を楽しんでいる子、本を読んでいる子、キーボードの演奏をしている子、テレビを見ている子などさまざまである。年齢の幅も広く、四歳の子が親から離れがたかったりすると、年長の子どもたちがその子の面倒を一生懸命みたりするシーンも見られた。十時になると、スーパーバイザーが子どもたちを一つの部屋に集め、出席をとり、今日の注意事項等を述べ、再び、三々五々と散らばっている。今度は、外でも遊べるので、多くの子どもたちは、運動場に出て行く。ボールゲームやバスケットボール、クリケットをする子、ままごとやお母さんごっこのようなことをしている子らが、スタッフとの関わりも楽しみながら遊んでいる。部屋の中ではある一角で、スタッフ

の一人が子どもたちにTシャツ染めを教えている。そのうちに十二時になり、スタッフによって準備されたテーブルの所に座って、お昼ごはんを食べる。子どもたちは食事が終わると、また三々五々と遊びへ散らばっている。スタッフは、テーブルを動かし、掃除をし、また、ビリヤードの台等を元に戻している。宿題をやっている子が目に付かなかつたのが不思議だったが、学年の切り替えの休みだから、ほとんど宿題がないとのこと、日本での春休みを思い出した。三時くらいからまた少しづつ、迎えに来る親の姿が見えてくる。六時には、ほとんどのスタッフも帰宅し、スーパーバイザーともう一人のメインの人が残り、最後の子どもたちを見送る。そして、最後の仕事をして帰る。八時から六時―長い一日、本当にお疲れ様と心のそこから思いながら、私もさようならとその場を去った。

(ロンドン在住)